



# コマンドラインインターフェイスの使用

この章では、Cisco Catalyst 9100 アクセスポイントのコマンドラインインターフェイス (CLI) について説明し、CLI を使用して AP を設定する方法について説明します。

- [コマンドモードについて \(1 ページ\)](#)
- [コマンドの省略形 \(2 ページ\)](#)
- [コマンドの no 形式について \(2 ページ\)](#)
- [CLI のエラーメッセージについて \(3 ページ\)](#)
- [ターミナルの設定 \(3 ページ\)](#)
- [コマンドの呼び出し \(4 ページ\)](#)
- [CLI のアクセス \(4 ページ\)](#)

## コマンドモードについて

Cisco Aironet Wave 2 AP のコマンドラインインターフェイスは、次の 2 つの異なるモードに分けられます。

- **ユーザ EXEC モード**：AP でセッションを開始すると、ユーザ EXEC モードで開始します。このモードでは、一部のコマンドしか使用できません。また、ユーザ EXEC モードで利用できる **show** コマンドは、特権 EXEC モードで利用できる **show** コマンドのサブセットです。  
ユーザ EXEC コマンドは、AP を再起動するときに保存されません。
- **特権 EXEC モード**：このモードでは、すべてのコマンドを利用できます。特権 EXEC モードを開始するには、パスワードを入力する必要があります。

利用できるコマンドは、現在実行しているモードによって異なります。現在のコマンドモードで利用できるコマンドのリストを取得するには、システム プロンプトで疑問符 (?) を入力します。たとえば、以下ではユーザ EXEC モードで利用可能なコマンドのリストが表示されています。

```
cisco-ap>?  
Exec mode commands  
enable Turn on privileged commands  
logout Logout out from CLI
```

```
ping      Send echo messages
show     Show running system information
```

表 1: コマンドモードの概要

モード	アクセス方法	プロンプト	終了方法	モードの用途
ユーザ EXEC	スイッチとのセッションを開始します。	cisco-ap>	<b>logout</b> または <b>quit</b> を入力します。	このモードを使用して次の作業を行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 端末の設定変更</li> <li>• 基本テストの実行</li> <li>• システム情報の表示</li> </ul>
特権 EXEC	ユーザー EXEC モードを実行している場合は、 <b>enable</b> コマンドを入力し、プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。	cisco-ap#	終了するには、 <b>disable</b> と入力します。	このモードを使用して、入力したコマンドを確認します。パスワードを使用して、このモードへのアクセスを保護します。

## コマンドの省略形

AP でコマンドが一意に認識される長さまでコマンドを入力します。

**show configuration** 特権 EXEC コマンドを省略形で入力する方法を次に示します。

```
cisco-ap# show conf
```

## コマンドの no 形式について

多くの機能でデバッグを有効にするには **debug** コマンドを使用する必要がありますが、プレフィックス **no** を使用するとそれらの各機能でデバッグが無効になります。次に例を示します。

デバッグを有効にするコマンド：

```
cisco-ap# debug client ...
```

デバッグを無効にするコマンド：

```
cisco-ap# no debug client ...
```

# CLI のエラーメッセージについて

次の表に、CLI を使用して AP を設定するときに表示される可能性のあるエラーメッセージの一部を紹介します。

表 2: CLI の代表的なエラーメッセージ

エラーメッセージ	意味	ヘルプの表示方法
% Ambiguous command: "show con"	AP がコマンドを認識できるだけの文字数が入力されていません。	最後に疑問符 (?) を付けて、コマンドを再度入力します。コマンドと疑問符の間にはスペースを 1 つ入れます。 コマンドとともに使用できるキーワードが表示されます。
% Incomplete command.	コマンドに必須のキーワードまたは値が、一部入力されていません。	最後に疑問符 (?) を付けて、コマンドを再度入力します。コマンドと疑問符の間にはスペースを 1 つ入れます。 コマンドとともに使用できるキーワードが表示されます。
% Invalid input detected at '^' marker.	コマンドの入力ミスです。間違っている箇所をキャレット (^) 記号で示しています。	疑問符 (?) を入力すると、そのコマンドモードで使用できるすべてのコマンドが表示されます。 コマンドとともに使用できるキーワードが表示されます。

## ターミナルの設定

始める前に

特権 EXEC モードを開始します。

手順

- 次のコマンドを入力して、画面上の行数を設定します。

**terminal length number-of-lines**

有効な範囲は 0 ~ 512 です。0 を入力すると、一時停止しなくなります。

例 :

```
cisco-ap# terminal length 20
```

- 次のコマンドを入力して、現在のターミナル回線にデバッグ出力をコピーします。

**terminal monitor**

- 次のコマンドを入力して、現在のターミナル回線へのロギングを無効にします。

**terminal monitor disable**

- 次のコマンドを入力して、ターミナルのタイプを指定します。

**terminal type** *type-name*

- 次のコマンドを入力して、画面の行に表示する文字数を設定します。

**terminal width** *number-of-characters*

有効な範囲は 0 ~ 132 です。

例 :

```
cisco-ap# terminal width 30
```

## コマンドの呼び出し

履歴バッファにあるコマンドを呼び出すには、次の表に示すいずれかの操作を行います。これらの操作は任意です。



(注) 矢印キーが使用できるのは、VT100 などの ANSI 互換端末に限られます。

表 3: コマンドの呼び出し

アクション	結果
上矢印キーを押す	履歴バッファ内のコマンドを呼び出します。最後に実行したコマンドが最初に呼び出されます。キーを押すたびに、より古いコマンドが順次表示されます。
下矢印キーを押す	上矢印キーでコマンドを呼び出してから、履歴バッファ内のより新しいコマンドに戻ります。キーを押すたびに、より新しいコマンドが順次表示されます。

## CLI のアクセス

CLIにはコンソール接続、Telnet、またはブラウザを使用することによってアクセスできます。1つのセッションで入力したコマンドは、別のセッションには表示されません。したがって、コマンドを入力したセッションを追跡できない場合があります。

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。